

第3回伊達市公立高等学校あり方検討委員会

会 議 録

伊達市教育委員会

審 議 会 会 議 録

会議名称	第3回伊達市公立高等学校あり方検討委員会		
議 題	(1) 再編統合校のめざすかたち		
開催日時	平成30年10月23日（火）18時30分～20時00分		
場 所	伊達市市民活動センター多目的室1・2・3		
出席委員	葛西正敏 委員、木谷明実 委員、桑井美彦 委員、肥吾信吾 委員、 小嶋義勝 委員、小林浩路 委員、佐藤研一 委員、鈴木敏則 委員、 高橋弘康 委員、根子ももこ 委員、馬場一憲 委員、万代淳 委員、 三好和美 委員、山崎誠 委員、吉川修一 委員、渡邊源之 委員 (計16名)		
	所管部課名	教育部学校教育課	
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	0人
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】</p> <p>1. 開会（事務局：教育部長）</p> <p>2. 委員長挨拶</p> <p>3. 議題</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 再編統合校のめざすかたち（事務局案）</p> <p style="padding-left: 40px;">事務局より説明</p> <p style="padding-left: 40px;">【質疑】</p> <p style="padding-left: 40px;">学級数について</p> <p style="padding-left: 60px;">○子どもたちが年々減っているのに、6間口ではなく、最初から5間口で整備した方がいいのではないかと。</p> <p style="padding-left: 60px;">●将来的に5間口になってしまうことは予想できるが、室蘭へ流出する胆振西部の進学希望者を伊達市へとどめることが再編の目標であるため、6間口で教員数を確保し、生徒の進学の実績を上げてもらえれば、子どもたちが減少したとしても、6間口を維持できると考える。また、市教委としても6間口を維持できるよう協力していきたい。</p>			

学級編成について

- 学級編成を特別進学クラスと普通クラスに分け多様な進路への対応を可能にするとあったが、このクラス編成は入学後に行うのか、それとも受験の際に生徒から希望を受けて編成するのか。
- 市教委が考えているイメージとしては、学級を分けるというより、コースを分けるというイメージで、入学後、多様なニーズに応えられる学校となるよう学校再編をすすめてもらうよう要望していく。

使用校舎について

- 使用する校舎は伊達高等学校の校舎とのことであるが、やはり校舎が大きいのか。
- 伊達高等学校は8間口に対応した校舎であり、伊達緑丘高等学校は4間口に対応した校舎であるため、改修費用は8間口に対応した伊達高等学校の校舎を改修したほうが安価であり、立地の面でも伊達高等学校のほうが登下校しやすと考えられることから、伊達高等学校を要望する。

特色ある教育活動について

- 食育センターとの連携とあるが、これは実現可能なものなのか。
- 現在、食育センターでは3,300食提供でき、そのうち、約3,000食を小中学校へ提供しており、余りの300食が提供可能である。そのため、高等学校の生徒全員への提供は不可であるが、学校の方針・希望者の数にもよるが、余りの300食の提供は可能と考えられる。
- グローバルということで、海外への研修旅行や英語コミュニケーション能力の向上に向けた学習活動、地域ボランティア活動の充実というようなことを要望するとあるが、市としての補助や援助は望めるのか。
- 道へ要望するだけでなく、伊達市として特色をだせるのであれば、補助等を検討していきたい。

統合時の両校2、3年生の取扱いについて

- 一斉統合は技術的にむずかしいということであるが、年次進行の統合である場合、両校の生徒はそれぞれ入学時の校名で卒業できるのか。
- 道教委が決定することなので、断言はできないが、伊達緑丘高等学校の生徒は伊達緑丘高等学校の校名で卒業することになり、伊達高等学校の生徒は新しい学校の卒業生として卒業することになるのではないかとおもわれる。また、現在の中学3年生が該当することになるが、決定前なのでこのことを生徒たちに説明できないことが問題となる。

【要望】

- 統合に伴って、両校の校名は使用しないとあったが、伊達にある学校なので「伊達」という地名は使用してもらいたい。
- JRで登校する場合、駅から学校までの距離が遠いことが理由で室蘭へ進学する生徒もいると聞いたことがあり、生徒数の確保にもつながるとおもわれるので、今回の要望に交通機関の確保も盛り込んでいただきたい。
- 自家発電が可能であることや避難所への対応が可能になることなど災害に強い学校へなるよう要望していただきたい。

【まとめ】

- 今回の案について了承いただけたので、この案に今日のご意見等を盛り込み、次回までに委員長、事務局で意見書案を作成する。
- 次回はその案について、意見をいただき、検討をすすめることとする。
- 次回で検討内容がまとまれば、次回を最終回としたい。

4. 閉会